

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 ＜長崎県の結果の概要＞

I 調査の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施対象

県内国公立学校の以下の学年の、原則として全児童生徒を対象とする。

- 小学校調査…小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- 中学校調査…中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査…国語、算数・数学、英語

国語、算数・数学、英語はそれぞれ次の①と②を一体的に出題。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力に関わる内容
- ※英語の「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式による。

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査期日 平成31年4月18日（木）

5 調査実施校数及び児童生徒数

- (1) 実施校数 487校（調査対象者の在籍する学校の総数 487校）
（小学校：312校、中学校：173校、義務教育学校：2校）

(2) 参加児童生徒数

- 小学校6年生 11,349人
- 中学校3年生 10,812人

Ⅱ 全国学力・学習状況調査「結果の概要」

1 教科に関する調査

1 平均正答率

県全体 (公立小・中学校・義務教育学校、県立中・特別支援学校)								
小学校			中学校			県立中学校(3校)		
教科	本県	全国	教科	本県	全国	教科	本県	全国
国語	61	64	国語	73	73	国語	93	73
算数	65	67	数学	60	60	数学	88	60
			英語	54	56	英語	81	56

※中学校英語の「話すこと」は、参考値のため平均正答率には含まれない。

<参考1> 平成30年度の調査結果(公立小・中学校、県立中・特別支援学校)

校種	教科	A問題(知識)		B問題(活用)	
		本県	全国	本県	全国
小学校	国語	69	71	54	55
	算数	62	64	50	52
	理科	60	60	※A問題・B問題の区別なし。	
中学校	国語	75	76	60	61
	数学	65	66	45	47
	理科	66	66	※A問題・B問題の区別なし。	

<参考2> 平成28年度小学校6年生(現中学3年生)の調査結果

校種	教科	A問題(知識)		B問題(活用)	
		本県	全国	本県	全国
小学校	国語	72	73	57	58
	算数	78	78	47	47

※平成30、31年度(令和元年度)の数値は文部科学省が公表したデータによる。

※平成28年度の数値は、文部科学省が公表したデータをもとに整数値に変更したもの。

2 平均正答率と「学力向上のための三つの提案」に係るアンケートとの相関 (上位校と下位校の比較)

※平均正答率上位 50 校、下位 50 校を抽出

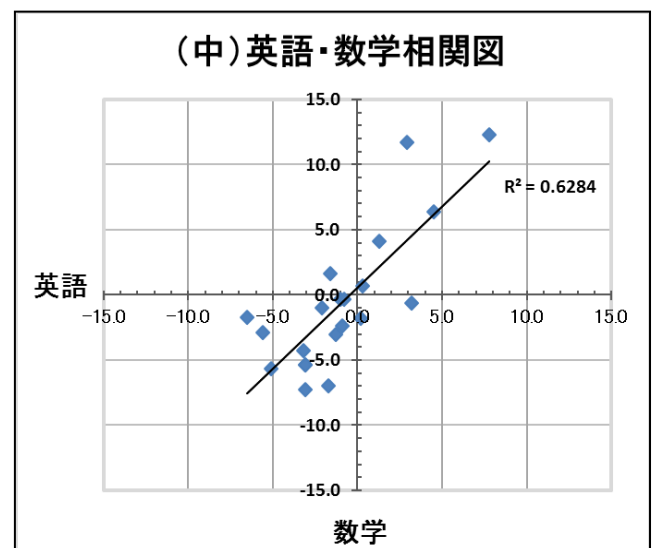
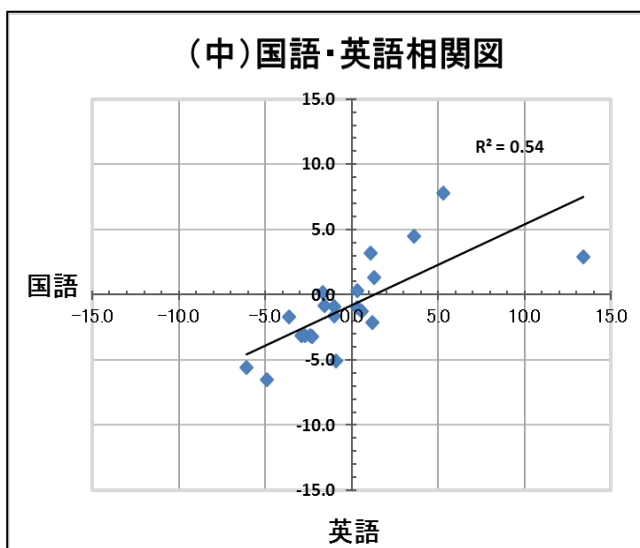
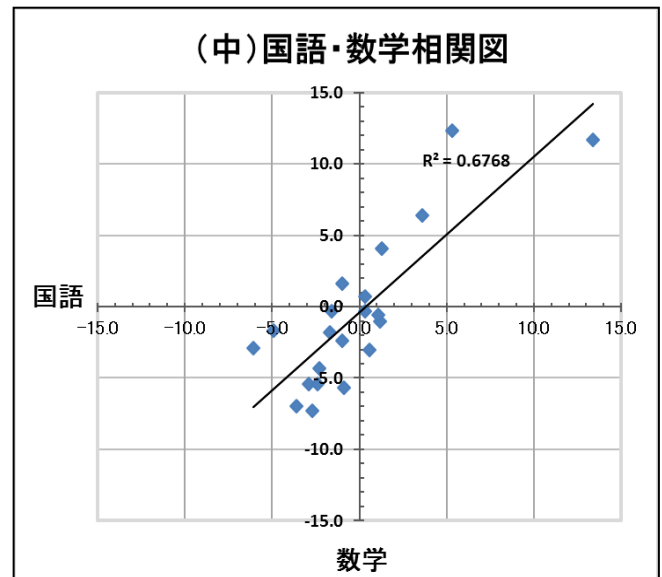
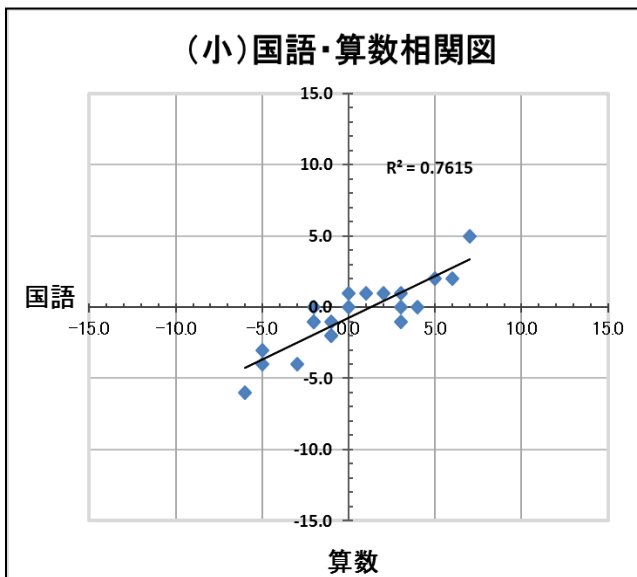
(1 学年 20 名以上の学校を抽出)

	小学校			中学校			県全体		
	上位校	下位校	差	上位校	下位校	差	上位校	下位校	差
「めあて(課題)」と「まとめ」が子供に届く授業	80.3	69.2	11.1	55.8	64.7	-8.9	69.0	67.0	2.0
ねらいに即した「書く活動」を重視する授業	57.4	48.1	9.3	28.8	33.3	-4.5	44.2	40.8	3.5
「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により安心して学べる授業	75.4	44.2	31.2	71.2	68.6	2.5	73.5	56.3	17.1

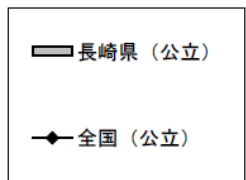
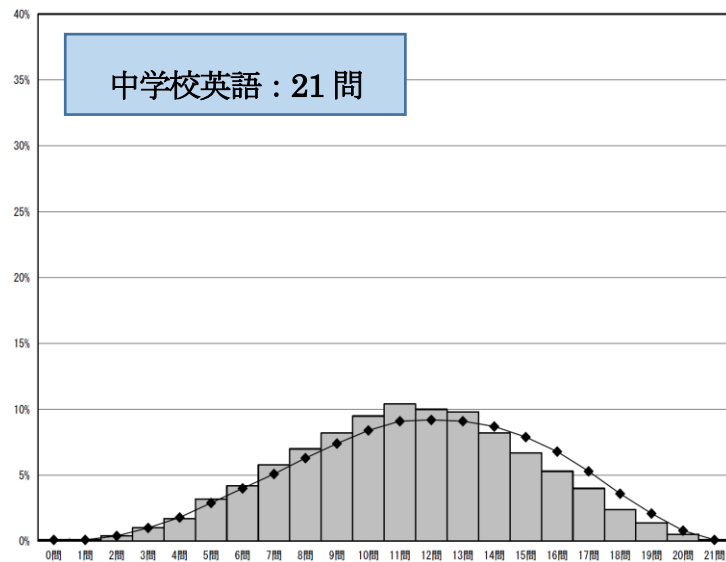
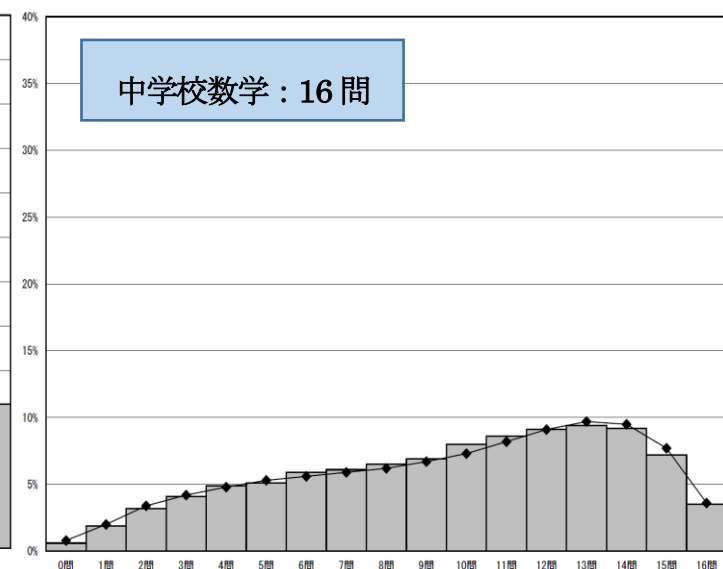
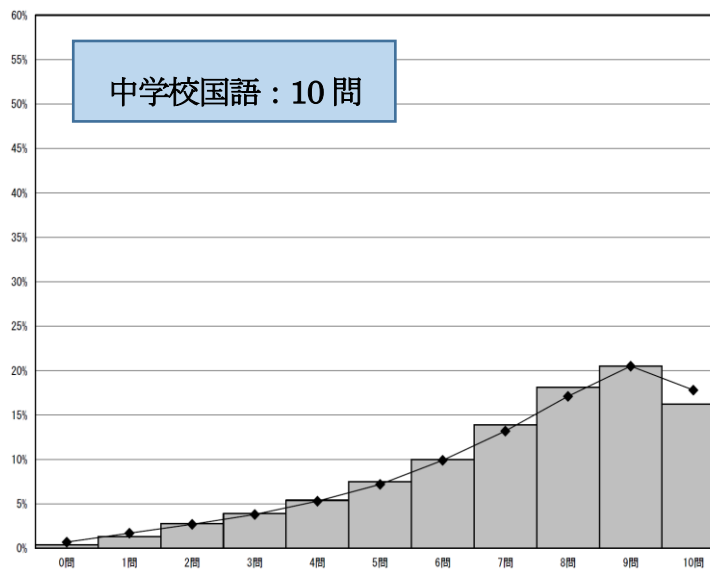
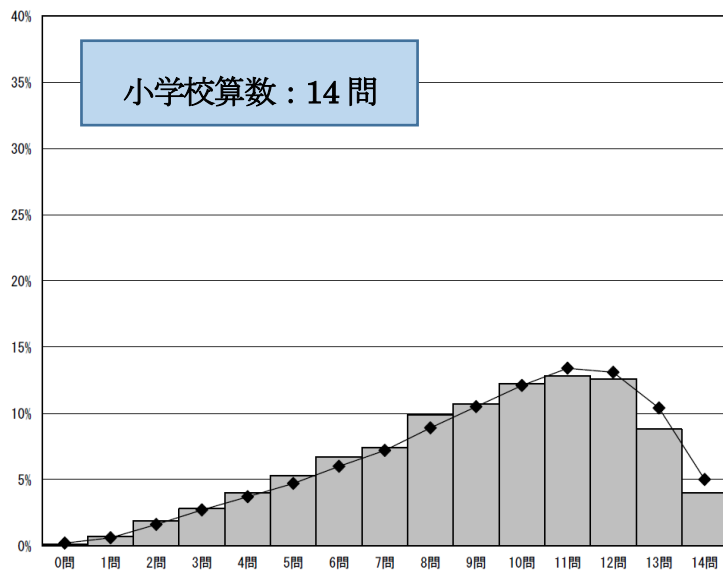
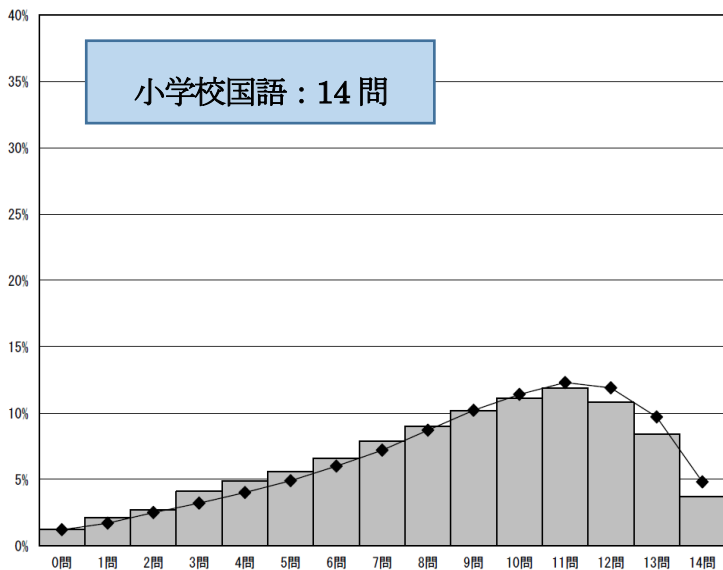
※「よく行っている」と回答した学校の割合(%)

3 各教科間の平均正答率の相関

※各市町の平均正答率と全国平均正答率との差を用いた相関



4 各教科の正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



5 結果の総括

(1) 県全体の平均正答率

- ◇ 小学校では、国語は全国平均を3ポイント下回り、算数は全国平均を2ポイント下回った。
- ◇ 中学校では、国語、数学ともに全国平均と同程度であり、英語は全国平均を2ポイント下回った。

(2) 平均正答率と「学力向上のための三つの提案」に係るアンケートとの相関

- ◇ 小学校では、平均正答率が高い学校ほど、「めあて」と「まとめ」が子供に届く授業を実施し、ねらいに即した書く活動を重視している。また、「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」を図り、安心して学べる授業を実施している。
- ◇ 中学校では、平均正答率が高い学校ほど、「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」を図り、安心して学べる授業を実施している。また、「めあて」と「まとめ」、「書く活動」においては、小学校のような相関が見られないことから、各学校の認識の仕方や取組の質に違いがあることがうかがえる。

(3) 各教科間の平均正答率の相関

- ◇ 小学校、中学校ともに、各教科間の平均正答率には、相関関係がうかがえる。
- ◇ 小学校国語と算数、中学校国語、数学、英語ともに平均正答率が低い学校は各教科に共通して問題を読み取る力や、自分の考えを表現する力等に課題があることがうかがえる。

(4) 各教科の正答数分布のグラフ

- ◇ 小学校国語、算数では、正答数が少ない層の割合が高く、小学校低学年段階からの基礎的な知識・技能の積み上げに課題があることがうかがえる。
- ◇ 中学校英語では、上位層の割合が少ないことから、英語を用いたコミュニケーションの機会を充実させることが求められる。

(5) 各問題の解答状況

- ◇ 各教科における昨年度の重点課題の状況は、以下のとおりである。

		重点課題 (H30)	問題番号	状況(全国との差)
小学校	国語	条件に合わせて書く	1三	-4
		語彙(漢字)	1四(1)	-2
	算数	式の表現と読み	3(4)	-3
		資料の整理と読み	2(3)	-3
中学校	国語	条件に合わせて書く	3二	±0
	数学	図形の証明	7(3)	-3
	英語	適切な英語を用いて表現する	9(2)②	-6
		自分の考えや理由を書く	8	-1

◇ その他、課題が見られた問題

【小学校国語】意味のつながりを考えながら、接続語を使って1文を2文に分けて書き直す問題(1四(2))

【小学校算数】示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する問題(3(2))

【中学校国語】文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ問題(1一)

【中学校数学】事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題(6(2))

【中学校英語】与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の文を正確に書く問題(9(3))

◇ 問題を正しく読み取り、複数の情報から必要な情報を選択したり関連付けたりすること、また、それらを基に自分の考えをまとめ表現することに課題がある。

6 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査 各市町の状況

(全国平均以上の場合「+」表示)

校種	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
長崎市			+	+	
佐世保市					
島原市	+	+	+	+	
諫早市			+		
大村市					
平戸市	+				
松浦市					
対馬市					
壱岐市			+		
五島市					
西海市					
雲仙市	+			+	
南島原市	+				
長与町	+	+	+	+	+
時津町			+	+	+
東彼杵町			+		+
川棚町					
波佐見町			+		
小値賀町	+		+	+	+
佐々町	+	+			
新上五島町					

2 質問紙調査

1 主な状況（質問紙調査からの抜粋）

【道徳性、自己有用感等】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	H30			H31(R1)			H30			H31(R1)		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 人の役に立つ人間になりたい	95.7	95.2	+0.5	96.0	95.2	+0.8	96.6	94.9	+1.7	95.9	94.3	+1.6
2 いじめはどんな理由があってもいけない	97.0	96.8	+0.2	97.4	97.1	+0.3	96.9	95.5	+1.4	96.7	95.1	+1.6
3 自分には、よいところがある	85.5	84.0	+1.5	82.3	81.2	+1.1	81.5	78.8	+2.7	75.9	74.1	+1.8
4 先生は、あなたのよいところを認めてくれている	85.6	85.3	+0.3	87.0	86.1	+0.9	84.1	82.2	+1.9	83.6	81.5	+2.1

【学習習慣と生活習慣】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	H30			H31(R1)			H30			H31(R1)		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	67.5	67.6	-0.1	71.3	71.5	-0.2	52.3	52.1	+0.2	50.4	50.4	0.0
2 授業以外に1時間以上(中学校は2時間以上)の学習をしている(月～金)	67.2	66.2	+1.0	66.9	66.1	+0.8	31.1	36.4	-5.3	28.8	35.5	-6.7
3 毎日朝食を摂取	94.3	94.5	-0.2	95.6	95.3	+0.3	94.1	91.9	+2.2	95.0	93.1	+1.9
4 家の人と、学校での出来事について話を する	80.8	80.5	+0.3	76.6	77.4	-0.8	79.1	76.0	+3.1	80.0	76.4	+3.6

【学校や地域、社会に関わる活動の状況等】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	H30			H31(R1)			H30			H31(R1)		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 将来の夢や目標を持っている	85.1	85.1	0.0	84.1	83.8	+0.3	72.9	72.4	+0.5	72.0	70.5	+1.5
2 学校に行くのは楽しい(H30は質問項目なし)	87.9	86.3	+1.6	87.0	85.8	+1.2	85.0	80.9	+4.1	85.1	81.9	+3.2
3 今住んでいる地域の行事に参加している	64.8	62.7	+2.1	69.3	68.0	+1.3	49.6	45.6	+4.0	54.5	50.6	+3.9
4 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	48.0	49.9	-1.9	53.1	54.5	-1.4	39.8	38.7	+1.1	41.6	39.4	+2.2

2 結果の総括

- ◇ 道徳性については、継続的に全国より高い傾向にあり、特に、「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童生徒の割合は、昨年度に引き続き95%を超えている。
- ◇ 「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」「家の人と、学校での出来事について話をする」と回答した児童生徒の割合は、概ね全国を上回るなど、教員や保護者など周囲の大人との関係性を肯定的に捉えている。
- ◇ 「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同じ状況だが、中学校において「月～金において、授業以外に2時間以上学習」をしている生徒の割合は、引き続き全国を下回っている。
- ◇ 「自分には、よいところがある」「学校に行くのは楽しい」「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っており、自分自身や学校生活、自分の将来について、肯定的に捉えている。
- ◇ 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国より高く、また、特に中学校では、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した生徒が、昨年度に引き続き全国を上回るなど、地域との良好な関係性、地域や社会への関心の高さがうかがえる。

3 各教科の状況

小学校国語

- ・ 報告する文章の一部を、調査結果をもとに書く問題 (1三：条件に合わせて書く)
- ・ 文章中の言葉を、漢字を使って書き直す問題 (1四(1)：漢字)
- ・ 意味のつながりを考えながら、接続語を使って1文を2文に分けて書き直す問題 (1四(2))

1 【報告する文章】

(問題文から一部抜粋し、再構成している。)

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか

多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。

そこで、地いきの人三十人を調査の^アたいしようとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが〈資料2〉です。「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

(2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか

公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や持ちようがありました。

・ 警察署(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができます。

・ 停電のときでも、硬貨を使って通話をすることができます。

・ 電話が混み合っているときでも、優先的^ウにつながりやすい。

このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

3 調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の [] に「2 調査の内容と結果」の []

(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。 [] に入る内容を、次の条件に

合わせて書きましょう。

〈条件〉

○ 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。

○ 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。

○ 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

〈資料2〉

公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

1三

県の正答率 24.9%
全国との差 - 4

四 高橋さんは、「報告する文章」を書き終え、読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高橋さんは、習っている漢字がひらがなになっているところがあることに気がつき、書き直すことにしました。「報告する文章」の——部アからウのひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

そこで、地いきの人三十人を調査の「アたいしょう」として、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

ア

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に「イかぎらず多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもらいたいと思います。

イ
(らず)

ウ

(2) 高橋さんは、読み手に伝わりやすくするために、「報告する文章」の□□の文を二つの文に分けて書き直すことにしました。文と文をつなぐ言葉には「そこで」を使います。書き直した一文目の終わりの五文字と、二文目の「そこで、」に続く五文字を書きましよう。なお、読点(、)も字数にふくみます。

公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。

1四(2)

県の正答率 45.8%
全国との差 - 2

1四(1)

県の正答率	全国との差
ア 39.9%	ア - 2
イ 69.0%	イ - 1
ウ 30.7%	ウ - 5

- ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く（条件に合わせて書く）ことについては、継続課題である。
- ・漢字については、文の中で正しく使うことに課題が見られた。
- ・意味のつながりを考えながら、接続語を使って1文を2文に分けて書き直すことについて、課題が見られた。

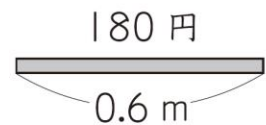
小学校算数

- ・示された除法の式の意味を問う問題(3)(4)：式の表現と読み)
- ・グラフを読み取る問題(2)(3)：資料の整理と読み)
- ・除法に関して成り立つ性質を記述する問題(3)(2))

3(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

問題

リボンを 0.6 m 買ったときの代金が 180 円でした。
このリボン 1 m 分の代金は、いくらですか。



1 m 分の代金は $180 \div 0.6$ の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

$180 \div 0.6 =$	<div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 15px; background-color: #cccccc;"></div>	
$\downarrow \times 10$	$\downarrow \times 10$	
$1800 \div 6 =$	300	変わらない

だから、 $180 \div 0.6$ の答えの は、300 です。

$1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえますか。

下の **あ** から **え** までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

あ 0.6 m 分の代金

い 1 m 分の代金

う 6 m 分の代金

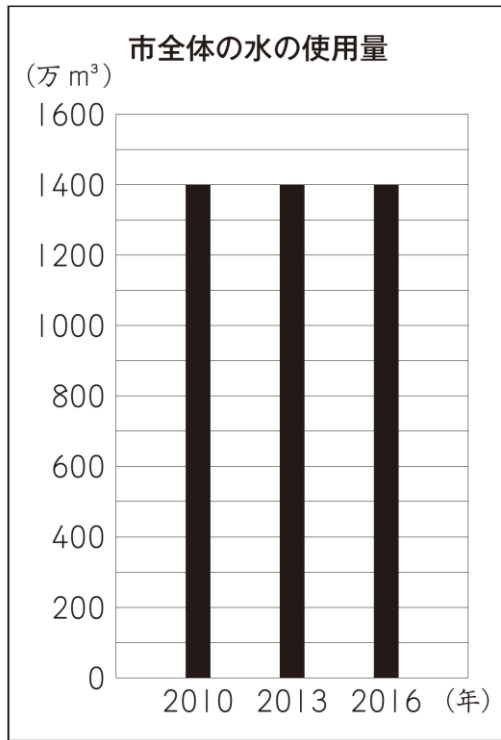
え 10 m 分の代金

3(4)

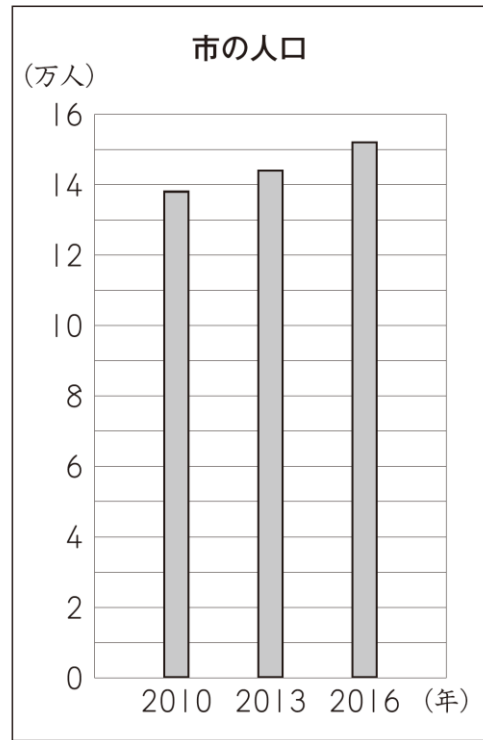
県の正答率 43.8%
全国との差 - 3

2(3)

グラフ2



グラフ3



かいと

わたし
私たちは、水を大切に使っているといえるのでしょうか。



ゆうか

市全体の水の使用量はわかりますが、1人で水をどのくらい使っているのかはわかりません。



あやの

グラフ2とグラフ3を見ることで、1人あたりの水の使用量についてもわかります。

あやのさんが言うように、グラフ2とグラフ3を見ることで、2010年から2016年までの1人あたりの水の使用量についてわかることがあります。

2010年から2016年までの、3年ごとの1人あたりの水の使用量について、どのようなことがわかりますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、グラフ2とグラフ3からわかることをもとに、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 | 人あたりの水の使用量は、減っている。
- 2 | 人あたりの水の使用量は、変わらない。
- 3 | 人あたりの水の使用量は、増えている。
- 4 | 人あたりの水の使用量は、増えたり減ったりしている。

2(3)

県の正答率 48.8%
全国との差 - 3

3(2)

ゆいなさんは、くり下がりのあるひき算を計算したときにもとにした考えをふり返って、次のようにまとめました。

【ゆいなさんがまとめたこと】

ひき算では、
ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、
ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、
差は変わりません。
このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

ことねさんは、 $400 \div 25$ や $90 \div 18$ のようなわり算についても、計算しやすい式にすることができると思い、下のように考えました。

【ことねさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{r} 400 \div 25 = \square \\ \downarrow \times 4 \quad \downarrow \times 4 \\ 1600 \div 100 = 16 \end{array} \quad \begin{array}{l} \curvearrowright \\ \text{変わらない} \\ \curvearrowleft \end{array}$$

だから、 $400 \div 25$ の答えの \square は、16 です。

$$\begin{array}{r} 90 \div 18 = \square \\ \downarrow \div 9 \quad \downarrow \div 9 \\ 10 \div 2 = 5 \end{array} \quad \begin{array}{l} \curvearrowright \\ \text{変わらない} \\ \curvearrowleft \end{array}$$

だから、 $90 \div 18$ の答えの \square は、5 です。

ひき算について書かれた【ゆいなさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。

下の□の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

3(2)

県の正答率	28.5%
全国との差	-3

- 除法の式の意味の理解は、継続課題である。
- 二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて判断し、その判断の理由を記述することは、継続課題である。
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題が見られた。

中学校国語

- ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く問題 (3二：条件に合わせて書く)
- ・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ問題 (1一)

3 青木さんは、「地域と私たちとのつながり」というテーマで意見文を書いています。次は、青木さんが書いた【意見文の下書き】と、読み返したあと新たに取材して見つけた、青木さんが住んでいる地域の【広報誌の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

最近、我が家ではインターネットを利用して買い物をする機会が増えている。それは、店に行かなくても豊富な商品を選べる上、重い荷物を持たなくてよいからだ。母も「便利になった。」と喜んでいる。これは、インターネットでの買い物ならではの良さだ。しかし、**①**皆が買いたい物を多くをインターネットで済ませるようになったら、地域の店はいつの間にかなくなってしまうのだろうか。

地域の店はこれからは必要だ。なぜなら、地域の店には、インターネットでの買物にはない**魅力**があるからだ。私は昨年度、学校の近くの店で職場体験をした。その店では、インターネットでは出回らない、地元の特産品を販売していた。私が自宅で使っている箸もその店で買ったもので、地元の木で作られている。他では買えないその土地ならではの商品を、手に取って選ぶことができるのは、地域の店の**魅力**だ。

②我が家でも買いたい物の仕方を見直し、インターネットだけでなく地域の店も積極的に利用し、その店を通して地域の魅力をどんどん見付けていきたい。皆さんも毎日の暮らしに目を向けて、地域とのつながりについて改めて考えてみてはどうだろうか。

二 青木さんは、【意見文の下書き】の——線部「魅力」の具体例に自分の体験を挙げるだけで足りないと考え、【広報誌の一部】にある情報を用いて**②**のところを文章を書き加えることにしました。あなたなら、どのような文章を書き加えますか。次の書き出しに続けて、【広報誌の一部】を見ていない人にも分かるように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

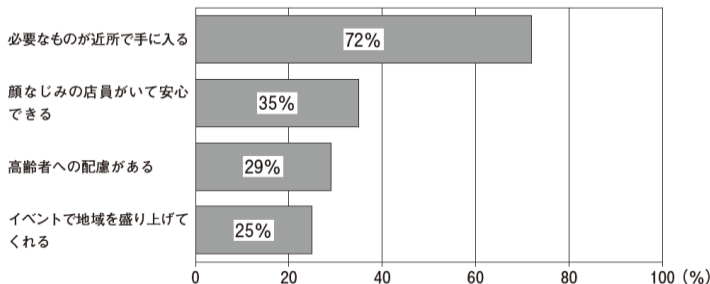
書き出し

また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、

【広報誌の一部】

利用者が感じる地域の店の魅力

(回答者数360人・複数回答可)



(平成30年8月 青空商店街調べ)

3二
 県の正答率 77.7%
 全国との差 ±0

1 問題用紙Ⅱの【全国中学生新聞】を読んで、あとの問いに答えなさい。

一 「シリーズ」再発見！ 日本の文化」にある、「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。…：第一回は、弁当です。」という文章（で囲まれた部分）について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 日本の文化の例を複数示すことで、読者が様々な国の文化と比較しながらこの紙面を読むことができるようにしている。
- 2 このシリーズで取り上げる内容を示すことで、読者が今後の掲載の見通しをもつことができるようにしている。
- 3 「海外に広がる弁当の魅力」の記事の要約を示すことで、読者が時間をかけずに新聞を読むことができるようにしている。
- 4 外国語の辞書に載っている言葉を示すことで、読者が海外と日本の言葉の意味の違いに気付くことができるようにしている。

1	一	
県の正答率	62.2%	
全国との差	- 2	

- 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く（条件に合わせて書く）ことについては、改善傾向が見られた。
- 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことにおいて、課題が見られた。

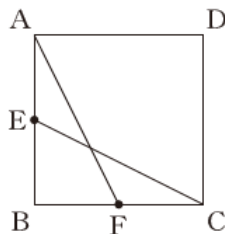
中学校数学

- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事実を見だし、説明する問題 (7)(3) : 図形の証明
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題 (6)(2))

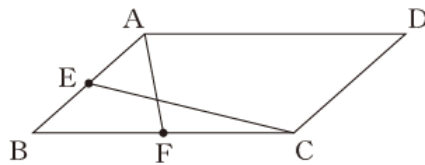
7 (3) 真由さんは、これまでに調べたことを、次のようにまとめました。

まとめ

◎ 「正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、 $AF = CE$ になる。」ということが成り立つ。



◎ 「平行四辺形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、 $AF = CE$ になる。」ということが成り立たない。



上のまとめから、「四角形ABCDが正方形ならば、 $AF = CE$ になる。」ということが成り立つことと、「四角形ABCDが平行四辺形ならば、 $AF = CE$ になる。」ということが成り立たないことがわかります。

正方形でない四角形で、 $AF = CE$ になる四角形ABCDを考えます。四角形ABCDがどんな四角形ならば、 $AF = CE$ になりますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

7(3)	
県の正答率	50.5%
全国との差	-3

6

(2) 健太さんの家では、7ページの健太さんが作った表で、容量が500 Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入して x 年間使用するときの総費用を y 円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」
お姉さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」
健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。
ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

6(2)

県の正答率 34.0%

全国との差 -1

- 図形の証明において結論が成り立つための前提を考え、新たな事実を見だし、説明することについては継続課題である。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題においては、課題が見られた。

中学校英語

- 与えられた語を用いて、会話が成り立つように正しく文を書く問題
(9)(2)②：適切な英語を用いて表現する)
- 読んだことを基にして、自分の考えを書く技能統合の問題
(8)：自分の考えや理由を書く)
- 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の文を正確に書く問題
(9)(3))

9

(2) 次の①, ②について、例を参考にしながら、必要があれば () 内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、それぞれ会話が成り立つように英語を完成させなさい。

(例) <放課後に図書室で>

A : Can you help me now?

B : Sorry. I (do) my homework now.

[答え] am doing

② <休み明けに教室で>

A : Was your vacation good?

B : Yes. My family and I went to Australia.

(stay) there for two weeks.

A : Wow! Wonderful.

9(2)②

県の正答率 22.6%

全国との差 - 6

- 8 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai*! We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

(注) the World Food Programme: 世界食糧計画 (国際連合の事業)
project: 事業 waste: ~を無駄にする rice ball: おにぎり
not only ~, but also ... : ~だけでなく, ...も

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

8	県の正答率	9.7%
	全国との差	-1

9

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。
らの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia	9(3)① 県の正答率 54.2% 全国との差 +1
②	住んでいる都市	Rome	9(3)② 県の正答率 26.6% 全国との差 -6
③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×	9(3)③ 県の正答率 31.9% 全国との差 -6

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

①

②

③



- 会話の流れから時制を判断して、会話が成り立つように文を書くこと（適切な英語を用いて表現する）は、継続課題である。
- 読んだことを基にして自分の考えを書くことは、継続課題である。
- 与えられた情報に基づいて正確な文を書く問題では、一般動詞の3人称単数現在時制の文を書くことに課題が見られた。